

## 問題 E

### 問 1. 口腔内が汚れている患者を見つけました。正しいものを選びなさい

1. 歯間ブラシなどを患者に使用するのは歯科専門職に限定されるので、使用しない
2. 経管栄養をされているので(経口摂取なし)口腔ケアは清拭でよい
3. 意識障害があるので、口腔ケアは専門家に任せ、行わない
4. 口腔内を触る事は専門外なので、事故防止の為に触らないようにする
5. 口腔内を確認し、ケアを行う

### 問 2. 口腔ケアについて、正しいものを選びなさい

1. 片麻痺の患者の義歯清掃において、清掃困難な場合は流水下で洗浄するだけでよい
2. 舌の清掃は嘔吐反射を誘導するため、あまり行わないようにする
3. 歯間ブラシなどの補助清掃用具は患者には用いない。
4. 摂食嚥下リハの前には必ず口腔内の確認をし、口腔ケアは実施すべきである
5. Barthel Indexでの整容の評価は口腔内でブラシをきちんと動かしているの、口腔内は特に見る必要はない。

### 問 3. 正しいものを選びなさい

1. 脳血管疾患回復期において、早期に義歯を装着し間接訓練を行う事は誤飲の危険があるので、禁忌である
2. 施設入所利用者において、自立支援の視点から口腔清掃は必ず自己にて行ってもら。介助などは行わない
3. 義歯の管理において、乾燥を防ぐため水を張った容器で保管を行い、保管している容器は毎日水を替え、清掃を行う。
4. 歯ブラシの保管はブラシの部分を下にして保管する。

### 問 4. 間違っているものを選びなさい

1. OHAT(oral health assessment tool)やROAG(revised oral assessment guide)などの口腔スクリーニングツールは歯科職種が使用することが望ましい
2. 管理栄養士が口腔ケアを行ってもよい。
3. 患者の総エネルギー投与量を計算する場合、簡易式では体重当たり25~35kcal/kg/dayで計算を行い、患者の摂食量などにおいて把握をしておく必要がある
4. 人工呼吸器を使用している患者にも口腔ケアを行う

## 問題 E

### 問 5. 食事場面における代償的アプローチ方法として誤っているものを選びなさい

1. 食形態の調節
2. 姿勢の調整
3. 一口量の調整
4. 咽頭冷圧刺激

### 問 6. 口腔ケアについて誤っているものを選びなさい

1. 器質的口腔ケア——歯周病の予防
2. 器質的口腔ケア——嚥下機能の維持やリハビリテーションの意味を持つ
3. 器質的口腔ケア——気道感染など、全身への悪影響を防ぐ
4. 機能的口腔ケア——唾液分泌を改善
5. 機能的口腔ケア——加齢変化による機能低下の予防

### 問 7. 自力での摂取が困難な臥床患者の食事介助で適切なものを選びなさい

1. 水分摂取の介助を控える
2. 仰臥位の姿勢を保持するよう介助する
3. 食事内容が見える位置に食器を配置する。
4. 患者の下顎が上がるよう上方からスプーンで介助する

### 問 8. 食事姿勢の調整として正しいものを選びなさい

1. 座面が高すぎる場合は足底接地のため足台を使う
2. 臥位では頸部が屈曲しないように枕を調整する
3. 臥位では足底は支持する必要はない
4. リクライニング座位ではティルト機能を使うと臀部のずれが生じる
5. 椅子座位では体幹とテーブルをしっかりと着けるようにする

### 問 9. 嚥下調整食について、間違っているものを選びなさい

1. 嚥下調整食学会分類は、病院や施設、家族介護者等が食形態の目安として使用できるよう作られた
2. 嚥下訓練食0jは、誤嚥した際の感染等を考慮してたんぱく質含有量が少ないものが望ましい
3. 嚥下訓練食0tである水分のとりみは、誤嚥しないようにしっかりつけた方がよい
4. 嚥下訓練食1jは、均質ななめらかさで、離水が少ないゼリー・プリン・ムース状の食品である
5. 嚥下調整食3はやわらか食やソフト食、嚥下調整食4は軟采食や移行食と呼ばれるものが多い

## 問題 E

**問 10. 食事とその介助に関する次の記述のうち、誤っているものを選びなさい**

1. 味覚、嗅覚、視覚の感覚の低下は、食欲不振をもたらしやすい
2. 嚥下障害は、誤嚥を起こすもとになり、誤嚥性肺炎の原因ともなる
3. 片麻痺のある人には、口の患側にスプーンを入れる
4. 一口ごとに、口の中に食べ物が残っていないか確認する
5. 嚥下体操は食前に行うと誤嚥予防に効果がある

**問 11. 次のうち、高齢者の口腔ケアの目的として、間違っているもの一つを選びなさい**

1. 唾液の分泌の抑制
2. 口臭の改善
3. 誤嚥性肺炎の予防
4. 歯周病の予防
5. 食欲の増進

**問 12. 嚥下機能が低下している人の食事介助として、適切なもの一つを選びなさい**

1. 飲み込むときは頭部を後ろに傾ける
2. スプーンの一口量を多くする
3. 食べ物は口腔の奥に入れる
4. 咀嚼しているときに話しかける
5. 食べ物を口に入れたら、口を閉じるように声かけをする

**問 13. 早食い、詰め込みの傾向がある場合の食事の注意点として間違っているものを選びなさい**

1. 咀嚼が必要な食事形態にする
2. 少量ずつ盛り付ける
3. ボール部が小さいスプーンを選択
4. 声掛けをし、ペース配分をおこなう
5. すぐに飲みこめる食事形態の選択